

南アフリカ グレープフルーツの輸出は100万箱減少の予測

[FreshPlaza](#) 2024年5月9日

南アフリカのグレープフルーツ業界は、昨年始めた輸出の調整を引き続き厳密に行っている。フッドスプロイト地域(リンポポ州)のランドマングループの会長で、この取り組みを率いるトミー・ランドマン氏は、過剰な供給が需要をはるかに上回り、法外に高騰した輸送コストと相まって悲惨な状況となった2021年と2022年のグレープフルーツ出荷シーズンの後、グレープフルーツの出荷を共同で計画するよう生産者を説得することは難しくなかったと述べている。(以下「」は同氏の発言)

グレープフルーツの推定出荷量は100万箱(17kg/箱。以下同じ)減り、約1,385万箱となったが、スタールビーグレープフルーツを40年間栽培してきた同氏の直感では、一旦下方修正が始まると、シーズンを通してそれが続くことが多いと感じている。現段階での推定値は、今年の輸出量よりまだ4%多い。

南アフリカのグレープフルーツの出荷の最盛期は第16週(4月半ば)～第22週(5月末)であるが、やりたいことは出荷シーズンを引き延ばすことである。2023年には、自発的な調整努力と、スタールビーの果実が従来の想定よりも日持ちするという認識の結果として、グレープフルーツを26週間にわたって販売することができた。各週の各市場の上限値(問題なく販売できる数量水準)が推計され、輸出量はこの水準を下回るように維持される。(ホワイト・マーシュ・グレープフルーツのうち、輸出業者が思いどおりに販売することができるのは、今年51万700箱と推定される。)

着果量が多く小玉に「グレープフルーツは、世界的に消費量が増加していないため、供給過剰に非常に敏感である。最盛期の困難な時期には、クラス2の果実を取り除き、入数55以下の小玉を制限することを検討する。今年グレープフルーツの収穫が始まるとすぐに、入数55の小玉が多いことに気づいたので、注意深く観察し、小玉は毎週の輸出量の5%から10%の間に抑えている。」

幸いなことに、国内のグレープフルーツ果汁の価格がかなり高く、これは加工用品質の果実を輸出用の果実の流れから締め出すのに役立ち、おそらく国内向けの生鮮供給量も減少させている。

ランドマン氏が柑橘類を扱ってきた40年の間に、グレープフルーツ市場は、南アフリカと米国フロリダ州が一緒になって日本向けにグレープフルーツを周年供給していた時代から大きく変化した。その間に、カンキツグリーンング病(HLB)がフロリダ州の柑橘類産産を台無しにした。

「日本には巨大な市場があったが、フロリダ州産の不在は我々にとって非常に悪い影響を与えた。売り場の棚におけるグレープフルーツの連続性が消えてしまった。」現在、日本は南アフリカ産グレープフルーツの第3位の市場である。

今シーズンこれまでのところ、グレープフルーツの約40%がロッテルダム(オランダ)に送られており、残りはイタリア(台湾とともに、小玉にとって貴重な市場である)とドイツがグレープフルーツ輸入国の10位にランクインしている。

他とは異なる中国の消費形態「現在、我々は多くのスタールビーを中国に送っており、今年これまでに100万箱弱となる。それでも、ヨーロッパ向けの輸出量には遠く及ばない。」中国は興味深い市場であり、世界の他の地域とは反対に、グレープフルーツは生鮮消費ではなく、主に喫茶店で使われている。

「2022年は、出荷業者間の調整不足により、中国市場は完全に供給過剰に陥った。その結果、2023年の販売を開始した時点で前年の加工品が大量に残っていたため、去年は中国へのグレープフルーツの供給を一切行わないことに決めた」これを繰り返さないために、南アフリカの代表2人が中国を訪問し、現在南アフリカ産グレープフルーツ第2の輸入国であるこの市場へのサービスの仕方について直接学んだ。

南アフリカのグレープフルーツにとって最も収益性の高い市場である韓国 - 届きさえすればだが、検疫検査が過度に厳格で不許可が尋常でない - に、今シーズンは19万6千箱強が届いた。(他の品目の記述は省略)

執筆者: キャロライズ・ヤンセン